

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月7日現在

機関番号：31304

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2013

課題番号：21792336

研究課題名（和文） うつ病の再発防止に向けた看護面接の方法

研究課題名（英文） Indices for Nursing Interviews for Preventing Relapse of Depression

研究代表者

近田 真美子（KONDA MAMIKO）

東北福祉大学・健康科学部・講師

研究者番号：00453283

研究成果の概要（和文）：

うつ病の再発防止に向けた看護面接の方法を検討した結果、対象者の「状況構成（Situierung）」を把握した上で、身体性の回復に焦点をあてながら受け止め手としての他者の存在の有無を確認すること、また対象者自ら生活を再構築できるよう援助するために彼らの鏡像として内省を促す機会を設けたり、多様な価値観に触れる機会を提供し、彼らの自己洞察を促すよう関わるのが重要であることがわかった。

研究成果の概要（英文）：

We examined different indices based on Situierung changes in patients in nursing interviews in order to determine which were the most valuable for helping to prevent the relapse of depression. Reviewing individuals' lives with a focus on their physical recovery, checking whether patients have someone who understands and accepts them. And then encouraging them to reflect on themselves as their own mirror image to help them rebuild their lives by themselves and giving them an opportunity to learn different values, thus encouraging self-insight.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
21年度	1,000,000	300,000	1,300,000
22年度	600,000	180,000	780,000
23年度	600,000	180,000	780,000
24年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：地域・老年看護学

キーワード：うつ病患者の看護、状況構成（Tellenbach）、うつ病の回復過程、うつ病の再発防止、

1. 研究開始当初の背景

うつ病患者に対する治療は多様化しつつある。中でも、産業メンタルヘルス領域におけるうつ病患者の治療は、休養と薬物療法のみならず認知行動療法や集団精神療法、リラクゼーション法の習得、生活リズムのチェック、復職診断と実に多様である。そうしたサービスを受け、うつ症状が改善し復職を果たしているケースもあるが、せっかく復職に結びついていても諸事情から再度休職に至る場合が多いのも現実である。

この現実、うつ病者の回復において重要なのは、心身の休息が図られ、うつ症状が軽減し再び社会復帰出来ることだけではないことを示している。申請者は、回復したにもかかわらず、再び発病前と同じ日常生活に戻り再発したうつ病者を目の当たりにしてきた。うつ病は、1人ひとりの“生き方”をめぐる病である。うつ病を発症した1人ひとりが、個人と環境の関係の在り様を問い直し、“再発しない生き方”までをも視野に入れた看護援助が必要である。

こうした観点から、申請者は2年前より、うつ病回復者にインタビュー調査を実施し、生き方の変化を「状況構成 (Tellenbach, 1961)」という視点からとらえその特徴を明らかにしてきた。

「状況構成とは、「対人環境『および事物的な身の廻りのもの』を、封入性ないし負目性の現象によって特徴づけられるような、現存在投与の中に取り込むこと」を指すが、本研究においては、「自分の健康や、恋人などの他者や、仕事など身の回りのことがらと関

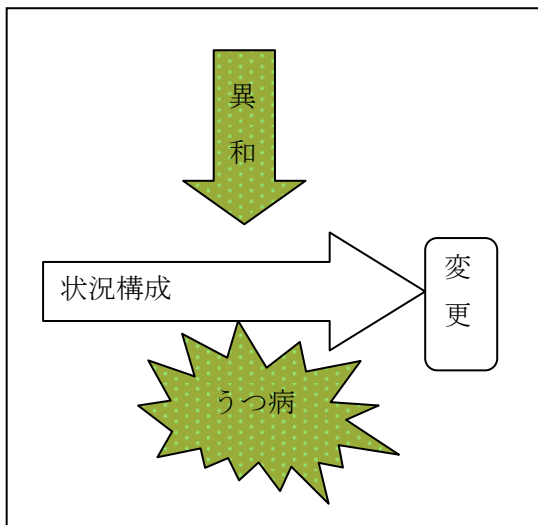


図1：状況構成からみたうつ病の発症
(研究代表者作成)

わる時のその人独自の関わり方のこと」(高岡, 2003)と定義した。

その結果、うつ病者はこれまでの“生き方”が通用しない状況で発症しており、回復には「状況構成」の変化が必要であることが明らかとなった。

変化の特徴としては、(1) 仕事優先の生活から身体を含む自己と和解し、自分の健康や趣味を中心とした生活へ変化していたこと、(2) 職場やその他の対人関係を断つ期間があったこと(3) ありのままの自分を吐き出せる「受けとめ」としての役割をとる家族や職場環境が存在していたことが明らかとなった。

これにより、うつ病者はこれまでの“生き方”が通用しない状況で発症しており、回復には「状況構成」の変化が必要であることがわかった。

以上より、看護援助の視点として、自己との和解を視野に入れ身体性の回復を図ること、1人ひとりの状況構成を考慮した上で、それまで一体化していた領域から一旦引き離す必要があること、状況構成を脅かすことのない他者や環境の存在により状況構成が変化する契機となり得る可能性があることが示唆された。

そこで本研究では、これまでの結果を踏まえて、うつ病の再発防止に向けた看護面接の方法を検討しようと考えた。

本研究の特色および独創性として次の2点があげられる。

(1) うつ病患者の価値観や生き方の変化を「状況構成」という視点で捉え、うつ病患者の再発防止に用いようとする点にあること。

(2) うつ病患者の再発防止に看護面接を用いようとする点にあること。

中でも、うつ病看護に関する先行研究では、十分な休養や確実な薬物療法を支持するといった入院中の患者を対象とした報告や、認知行動療法を活用しようという報告がみられるが、いずれも、1人ひとりの価値観や生き方までを視野に入れた再発防止のための看護援助は提示されてこなかった。唯一、鈴木ら(2005)が、うつ病看護は「生活設計の仕切り直しをすることの助言である」と述べているが、具体的方法までは提示されていないのが現状である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、うつ病の再発防止に向けて、これまでの研究（「うつ病回復者の状況構成の変化の特徴」平成 19～20 年度科学研究費補助金若手研究スタートアップほか）によって明らかにされた、「状況構成」の変化の特徴を踏まえた看護面接の方法を検討することである。

3. 研究の方法

(1) これまでの研究結果を踏まえ、うつ病回復者の状況構成の変化の特徴に焦点をあてた看護面接の指標を抽出する。

(2) 抽出した指標を用いて、退院予定の（もしくは復職が決まった）うつ病患者にプレテストを実施する。プレテストは、看護面接の指標に沿った半構成式インタビューにて行う。

(3) うつ病の再発回復者の状況構成の変化の特徴を踏まえた看護面接の指標を抽出する。

(4) 退院が決まったうつ病回復者に対し (3) を用いて看護面接を実施する。実施した看護面接の経過記録およびインタビュー内容をデータとする。面接時期は、退院（もしくは復職）が決定した時点、退院（もしくは復職）後 1 ヶ月以内、2 ヶ月、3 ヶ月、6 ヶ月、9 ヶ月、1 年、1 年半、2 年とする。

(5) 新たに発見される指標の有無を確認し、看護面接の指標を修正する。

(6) (5) により看護面接の指標を確定する。

4. 研究成果

退院が決まったうつ病回復者 5 名に対し、指標に基づきインタビューを実施した結果、再発予防のための看護面接の指標を確定することが出来た。

(1) 生活の再構築を図ることを念頭におきながら対象者の「状況構成」を把握すること。

(2) 何らかの役割と一体化しやすい傾向を抱えていることを念頭におきながら生活そのものを見直し、身体性の回復に焦点をあてて関わること。

(3) 身体を含む自己の回復が図られているかを見極めた上で、対象者の語りの中に、自己を客観視する視点が挿入されているのかに着目すること。その上で、対象者自ら生活を再構築できるよう援助するために彼らの鏡像として内省を促す機会を設けたり、多様な価値観に触れる機会を提供し、彼らの自己洞察を促すよう関わること。

(4) 心的エネルギーが充満し再び元の生活に戻りつつある場合、過去と現在の自己の振る舞い方を見直してもらうような声かけを行ったり、内省を促すよう関わること。

(5) 発病時（仕事をしていない自己から離れたい時期など）は、自己の存在を揺るがしかねない危機的状況にあること理解した上で、彼らに良き受け止め手としての他者の存在の有無を把握すること。万が一受け止め手が不在である場合は、そこを補う他者や場所が必要であることを考慮し、話を聞く時間を十分に取るよう考慮すること。

なかでも (3) (4) の指標は、生活の再構築が出来るか否かという点で再発の有無に大きく関与しているため、発病前と同じ生活パターンに陥っていないか、内省を促すような働きかけが重要であることがわかった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

近田真美子：うつ病という病を語ること／記述すること、看護研究，p. 368-376，医学書院。

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者

近田 真美子 (MAMIKO KONDA)

研究者番号：00453283

(2) 研究分担者

研究者番号：

(3) 連携研究者

研究者番号：